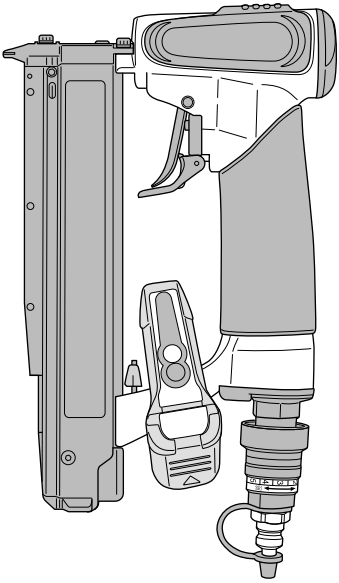
HiKOKI

# 取扱説明書

用途
● 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め

# 高圧ピン釘打機
# NP 35H

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。




はじめに

高圧釘打機の安全上のご注意…… 1
各部の名称…… 8
標準付属品…… 8
仕様…… 9
別売部品…… 10

使い方

ご使用前の準備・点検…… 11
釘の装てん…… 15
釘の抜き取り方…… 16
釘を打つ…… 17
打ち込み深さの調整方法…… 18
調圧器について…… 19
ライト付フックの使い方…… 20
釘の取扱い方…… 22

その他

保守・点検…… 23
エアコンプレッサと作業の速さ…… 26
使用潤滑油…… 26
ご修理のときは……裏表紙


本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended.No authorized service or warranty is available outside of Japan.

## ⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

**⚠注意** ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

**注** ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

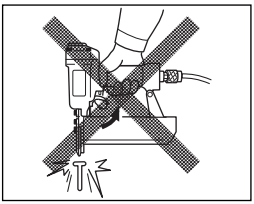
なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

# 高圧釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ⚠警告

**この機体はロックレバーを引いた後に、引金を引くだけで釘が発射します。釘を打つとき以外は、引金とロックレバーに触れないでください。**
**誤って釘が発射すると、けがの原因になります。**

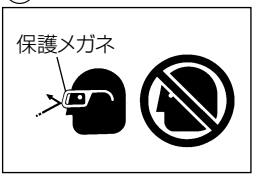


### 作業前

**① 保護メガネを使用してください。**

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
  釘を連結している接着剤や、打ち損じの釘が目に当たると、けがの原因になります。

①




**② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。**

釘打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

②

## ⚠警告

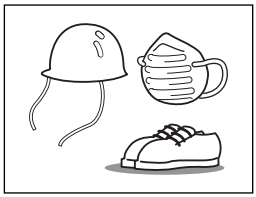
**③ 高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。**

- この機体は、使用圧力を一般圧の釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- この機体およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてありますので、改造をしないでください。
  これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

**④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。**

**⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。**

⑤



**⑥ きちんとした服装で作業してください。**

**⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。**

- ねじがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
  異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

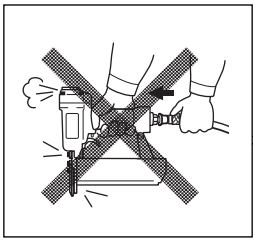
**⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。**

- 引金とロックレバーに手を触れない。
- 射出口を人体に向けない。
  誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

**⑨ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。**

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
  異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑨



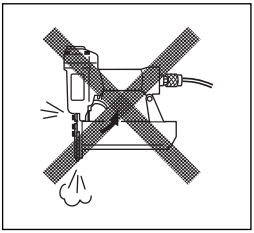
# ⚠警告

⑩ **使用前に安全装置（ダブルトリガ）の点検をしてください。**

この機体は、ロックレバーを引いた後に、引金を引かないと、釘が発射されない構造になっています。
釘を装てんしない状態で、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- ロックレバーを引いていないのに、引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑩



⑪ **用途にあった作業に使用してください。**

- この機体は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑫ **指定の釘を使用してください。**

指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑬ **子供を近づけないでください。**

- 作業者以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

⑭ **作業場は、いつもきれいに保ってください。**

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。

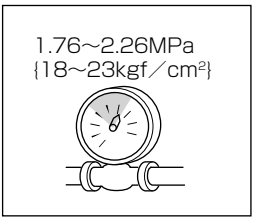
⑮ **作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。**

## 作業中

① **指定の空気圧力で使用してください。**

この機体の使用空気圧力範囲は
1.76 ～ 2.26 MPa{18 ～ 23 kgf/cm² } です。
この範囲内で使用してください。
2.26 MPa{23 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

①



# ⚠警告

② **人体に射出口を向けないでください。**
人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

③ **射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。**
誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

④ **釘を打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。**
釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⑤ **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**
可燃性の液体やガス ( シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など ) のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。
釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑥ **釘を打ち込むとき以外は、引金に指を掛けないでください。**
- 引金とロックレバーに触れたまま、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするときは、引金に指を掛けないでください。

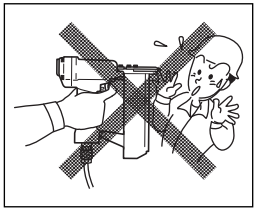
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

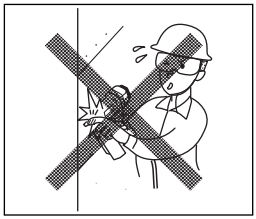
⑦ **ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

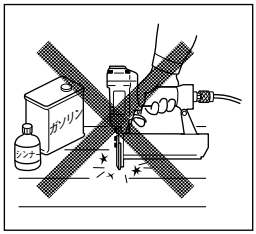
⑧ **フックを使用するときは、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

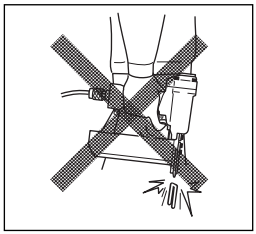
⑨ **次の場合は、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**
- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。

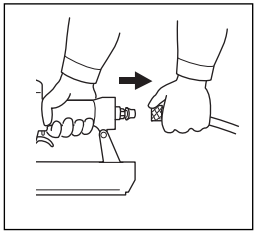
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

②


③


⑤



⑥


⑨


# ⚠警告

**⑩ 引金とロックレバーに触れた状態でエアホースをはずさないでください。**

引金とロックレバーに触れた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

**⑪ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。**

一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

**⑫ 作業中はまわりの人に注意してください。**

- 釘を連結している接着剤の破片や、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは下に人がいないことえをよく確かめてください。事故の原因にあんります。
  機体や材料を落としたとき、事故の原因になります。

**⑬ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。**

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

**⑭ 機体の反発に注意してください。**

硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

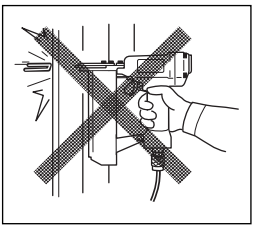
**⑮ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。**

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

**⑯ 無理な姿勢で作業をしないでください。**

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
  転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
  けがの原因になります。

⑬



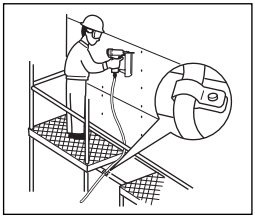
⑮

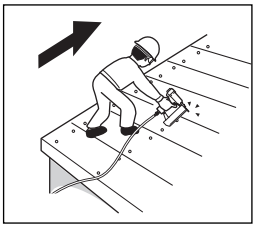
# ⚠警告

**⑰ 屋外での作業は、次のことに注意してください。**

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
  不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑰





**⑱ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。**

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

**⑲ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。**

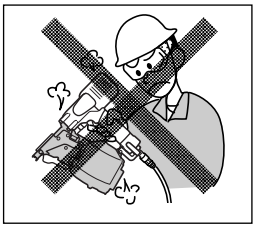
**⑳ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

**㉑ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

そのまま使用していると、けがの原因になります。

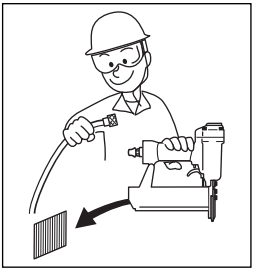
㉑



## ⚠警告

### 作業後

① **作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。**
釘を残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

① 

② **釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。**

③ **釘打機は、注意深く手入れをしてください。**
- 安全に能率よく作業していただくため、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください

④ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手が届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑤ **部品をはずしたり、改造をしないでください。**
安全性が損なわれ、けがの原因になります。

⑥ **釘打機の修理は、専門店に依頼してください。**
修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

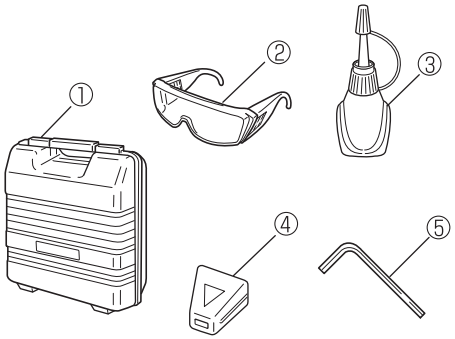
# 各部の名称

ヘッドカバー
バルブ
ダブルトリガ
調圧器
エアプラグ
ダストキャップ
ピストン
ボデー
ライト付フック
ドライバブレード
ストップレバー
マガジンカバー
ノーズ
引金
マガジン
ロックレバー
射出口
ブレードガイド

【マガジンの裏側】
ノーズキャップ
六角棒スパナ
ノーズキャップ

# 標準付属品

① 収納ケース …… 1 個
② 保護メガネ …… 1 個
③ 油さし ( 高圧釘打機用 ) …… 1 個
④ ノーズキャップ ( 平打ち用 ) …… 2 個
⑤ 六角棒スパナ 3 mm …… 1 個
※ ④⑤は【本体収納部に装着】



# 仕　様

| 形　　名 | NP 35H |
|---|---|
| 動　力　形　式 | ピストン往復動式 |
| 使用空気圧力 | 1.76 ～ 2.26 MPa{18 ～ 23 kgf/cm$^2$} |
| 釘送り方式 | 圧縮コイルばね式 |
| 釘の装てん数 | 100 本 (1 巻) |
| 製品の大きさ | 長 270 mm × 高 162 mm ×幅 47 mm |
| 質　　量 | 1.0 kg |
| 使用エアコンプレッサ | 高圧エアコンプレッサ　EC 1443H |
| 使用エアホース (内径 / 長さ) | 高圧エアホース (内径：5 mm 以上 / 長さ：30 m 以内) |

# 別売部品（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

この釘打機は、右の表に示すピン釘が使用できます。

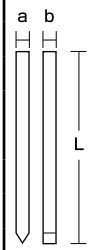
釘は 100 本が 1 連に接着されています。

釘はこの釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。

釘の頭の色は、茶とベージュの 2 色があります。

下地材に合わせてご使用ください。

**注 釘は弊社純正ピン釘をご使用ください。**
純正釘以外のピン釘を使用すると釘詰まりやピストン破損など故障の原因になります。

| 形　状 | 形　名 | 寸法 (mm) a | 寸法 (mm) b | L 寸法 (mm) | 材質 | 表面 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | P 0615B | 0.6 | 0.6 | 15 | 鉄 | 茶 |
| | P 0615Y | | | | | ベージュ |
| | P 0619B | | | 19 | | 茶 |
| | P 0619Y | | | | | ベージュ |
| | P 0625B | | | 25 | | 茶 |
| | P 0625Y | | | | | ベージュ |
| | P 0630B | | | 30 | | 茶 |
| | P 0630Y | | | | | ベージュ |
| | P 0635B | | | 35 | | 茶 |
| | P 0635Y | | | | | ベージュ |

# ご使用前の準備・点検

○**騒音防止規制について**
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

## ●エアコンプレッサ、エアホースの準備

### ⚠警告

- **この機体は、使用圧力を一般圧の釘打機より高く設定しています。**
  高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
- **この機体およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。**

この機体に使用できるエアホースの内径は 5 mm 以上です。

エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 **エアホースの長さは、30 m 以内のものをお使いください。**
エアホースが長いと圧力が降下して、十分な打ち込み力が得られません。

## ●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。
ご使用前後には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。

乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。( 詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

## ●釘の準備と安全点検

### ⚠警告

- **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**
- **子供など作業者以外は近づけないでください。**
- **ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。**
- **損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。**

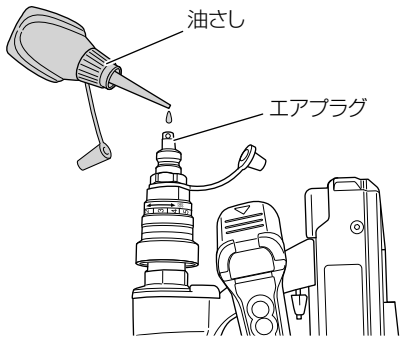
用途にあった釘を準備してください。(P.10「別売部品」参照)
P.23「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行ってください。

## ●空気圧力の確認

空気圧力は、1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf/cm²} の範囲でお使いください。
空気圧力が 1.76MPa {18 kgf/cm²} 未満または 2.26 MPa {23 kgf/cm²} を超えますと機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

## ●給油について

- 必ず 1 日に 2 回以上給油してください。給油は、作業の前後に 10 ～ 15 滴の油をエアプラグに入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油は P.26「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。




注
- **付属の高圧釘打機用の油さしは、ノズルに穴があいていません。針等で穴をあけてご使用ください。**
- **給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので、油がかかっても支障のない所で 2 ～ 3 本釘を打ってから作業してください。**
- **作業後給油した場合、釘を 1 本打ちますと油が内部に行き渡ります。**

## ●エアホースの接続

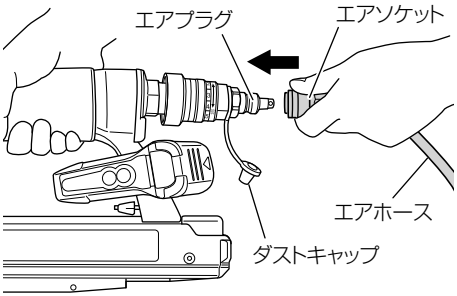
### ⚠警告

**機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。**
**•引金とロックレバーに手を触れない。**
**•射出口を人体に向けない。**

① エアプラグからダストキャップをはずします。

② ごみやほこりが内部に入らないようエアプラグの口元のごみをふき取ります。

③ エアソケットをエアプラグにしっかとさし込んでエアホースを接続します。



## ●ノーズキャップの使い方

化粧合板などのやわらかい材料にピン釘を打つときは、ノーズにノーズキャップを取付けて、材料の表面をノーズで傷付けるのを防止します。

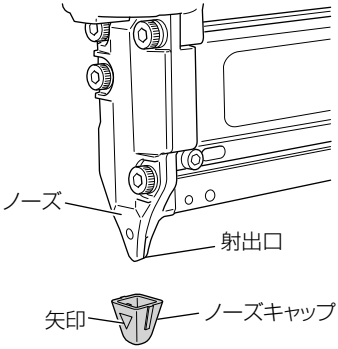
**⚠警告**

**ノーズキャップの取付け・取りはずしの際は、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**

### ノーズキャップの取付け・取りはずし

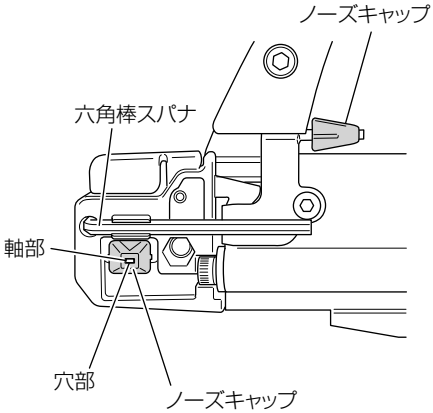
ノーズキャップはノーズに押し込むだけで取付けできます。矢印の付いている側を前にして、取付けてください。

取りはずすときは、ノーズキャップを指で引っ張り、取りはずします。




### ノーズキャップの保管

取りはずしたノーズキャップは、穴部をマガジン裏側の軸部にさし込んで保管してください。

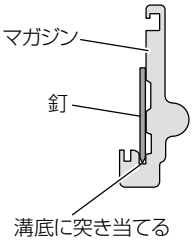


# 釘の装てん

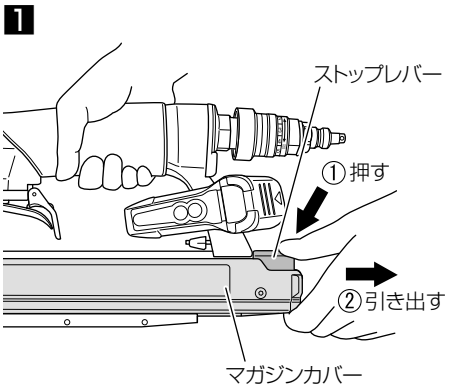
## ⚠注意

**釘の装てん・抜き取りの際は、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**

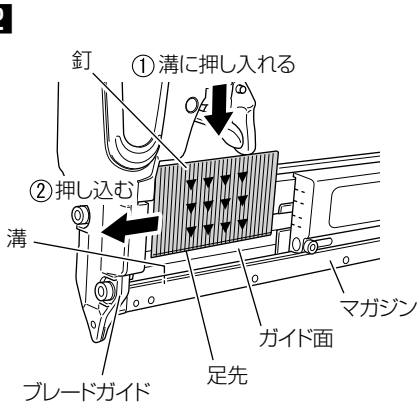
注
- **釘は 5 本以上連結されたものを使用してください。**
- **長さの違う釘を同時に装てんしないでください。**
- **連結本数の少ない釘を、一度に数連装てんしないでください。**
  釘詰まりなど、不具合の原因になります。
- **本機は 15 mm から 35 mm までの長さの釘が無調整で使用できますが、いずれの長さの釘も足先をマガジン下部の溝底に突き当ててください。( 右断面図参照 )**




**1** ① ストップレバーを軽く押します。
② マガジンカバーを静かに引き出します。




**2** ① 釘をマガジンのガイド面に押し当て、釘の足先をマガジンの溝の奥までしっかりと入れます。
② マガジン内の釘を指でブレードガイドの中へ押し込みます。



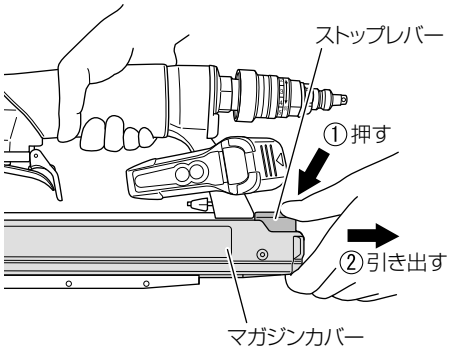

**3** マガジンカバーの後部を前方に押して、釘がマガジンのガイド面から浮き上がらないことを確認しながら、もと通りにゆっくり閉じます。

注
- **マガジンカバーは静かに閉めてください。**
  強く閉めると、釘の連結が変形して、マガジンカバーが閉まらないことがあります。

# 釘の抜き取り方

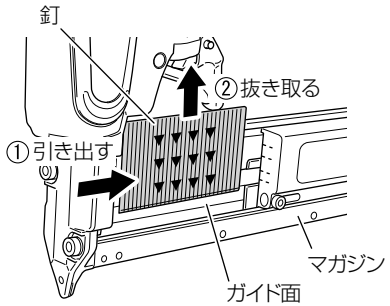
**1** ① ストップレバーを軽く押します。
② マガジンカバーを静かに引き出します。

**1**




**2** ① 釘をマガジンのガイド面にそって、引き出します。
② マガジン内の釘を指で抜き取ります。

**2**




注
- ブレードガイド内で連結が切れてしまうと、手前の釘を取除いた後に釘が残ってしまうことがあります。
- ブレードガイド内に残った釘は見えにくいので、注意して確認してください。
- 釘づまりして釘が抜き取れないときは、P.23「釘づまりの直し方」を参照してください。

# 釘を打つ

● 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め

## ⚠警告

- この機体はロックレバーを引いた後に、引金を引くだけで釘が発射します。釘を打つとき以外は、引金とロックレバーに触れないでください。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- 使用しない場合や作業中断時は、エアホースをはずしてください。
- 作業終了後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注
- 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。
- フロア材や、床材止めに使用しないでください。
  釘が浮いた場合など、誤ってふんだ場合、けがの原因なります。

## 1 給油する

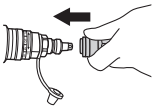
10～15滴の油をエアプラグから入れてください。
さび止めのため、作業後も給油してください。
(P.12「給油について」参照)

## 2 釘を装てんする

作業の用途に合った形状・寸法の釘をマガジンに装てんしてください。
(P.15「釘の装てん」参照)

## 3 エアホースを接続する

エアホースのエアソケットをエアプラグにさし込みます。
(P.13「エアホースの接続」参照)

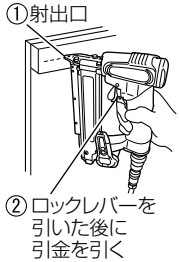


注 材料の硬さ・厚さ・組合わせによっては釘が曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちして確認の上、ご使用ください。

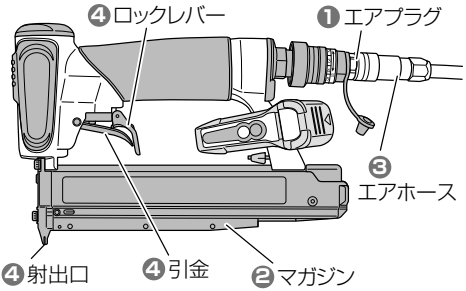
## 4 釘を打つ

(右ページ 安全装置について 参照)

- 釘を打つ所に射出口を軽く押し当ててロックレバーを引いた後に引金を引きます。
- 釘の打ち込み深さ調整は右ページを参照してください。

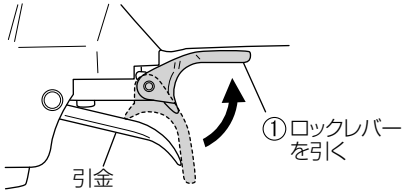


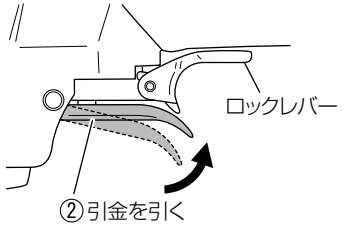

注 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。



### 安全装置（ダブルトリガ）について

この機体には、安全装置として通常の引金に加えて、ロックレバーを装備しています。釘を打ち込む場合には、ロックレバーを引いた後に引金を引くことで発射します。




# 打ち込み深さの調整方法

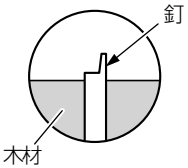
### ノーズで打ち込み深さを調整する

この機体は、ノーズを調整することにより、打ち込み深さを調整できます。

○ 六角穴付ボルト M4（2 本）をゆるめてノーズを上下に動かし調整します。下に取付けると、釘が浮く方向になります。

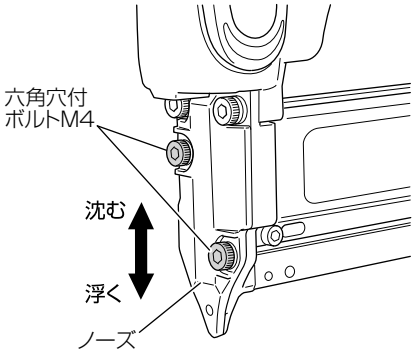
○ 調整後は、六角穴付ボルト M4 を締付けます。

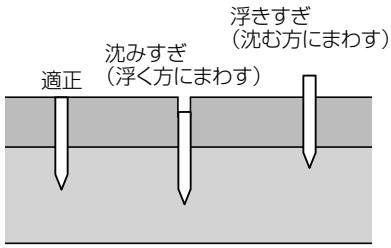
注
- **打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できるので、ノーズの調整と併用してください。**
  釘の打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると、機体の寿命を縮めます。
- **この機体のドライバブレードは消耗部品です。釘の打ち込み後、下図のような釘浮きが多く出る（100 本に 2 ～ 3 本）場合は、ドライバブレードの交換時期となります。**
  **（P.24「ドライバブレードの点検」参照）**




## ⚠警告

**ノーズの調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。**



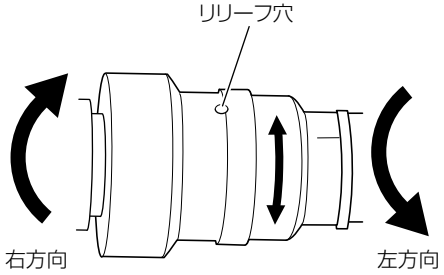
# 調圧器について

## ⚠警告

**調圧器で打ち込み調整をするときは、必ず引金とロックレバーに触れないでください。**

この機体には、釘打ち込み能力(釘の長さ、部材の硬さなど)に応じて出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

調圧器を右方向(目盛りが大きくなる方向)へ回転すると打ち込み能力が強くなり、左方向(目盛りが小さくなる方向)へ回転すると弱くなります。




**注 調圧時、調圧器のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。**

この調圧器は、高圧エアホース側の圧力 1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf/cm²} を一般圧 (0.49 ～ 0.69 MPa {5 ～ 7 kgf/cm²} 前後) に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ弁が作動してリリーフ穴から空気が排出されることがあります。

万一、リリーフ弁が作動して空気が排出された場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気の排出が止まれば正常です。

① すぐにエアホースをはずします。

② エアコンプレッサの圧力が 1.76 MPa {18 kgf/cm²} 以上に復帰するまで待ちます。

③ エアホースをつなぎ直します。

(1 回で空気の排出が止まらない場合は、①～③の手順を数回繰り返してください。)

上記①～③を行ってもリリーフ穴から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、直ちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

# ライト付フックの使い方

## ⚠警告

**ライト付フックを腰ベルトに掛けて機体を運ぶときは、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**

ライト付フックは
- 作業の合間に腰ベルトなどに吊下げるフックの役目
- 暗い場所で釘打ち作業する際の補助用ライトの役目

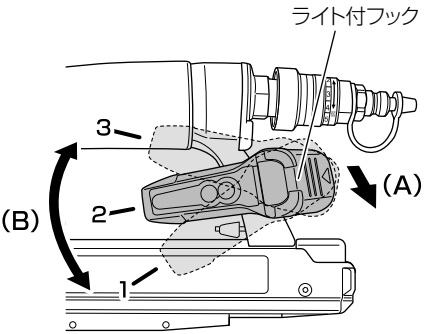
の 2 つの機能を持っています。

### フックとしての使い方

**1** フックを矢印 (A) の方向 ( 手前側 ) に引き出します。

**2** フックを矢印 (B) の方向に回転させます。

**3** 下図の 1 から 3 のいずれかの位置で、フックをはなしてください。中間の位置には調整できません。



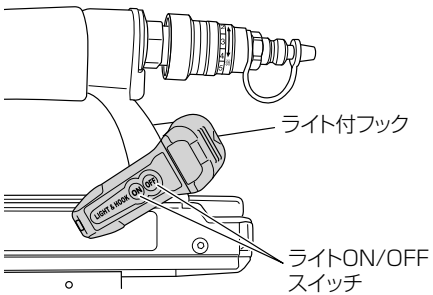

## ⚠注意

**ライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。**
ライトの光が連続して目に当たると目を傷める原因になります。

### 補助用ライトとしての使い方

**1** フックの位置を左下図 1 の位置にすると、射出口付近を照射します。

**2** ライトの ON スイッチで点灯、OFF スイッチで消灯します。
電池消耗防止のため、小まめに消してください。
このライト付フックには消し忘れ防止のため、15 分後に自動的に消灯する回路を組み込んであります。




| ライトの点灯時間の目安 | |
|---|---|
| 単 5 マンガン乾電池 | 約 15 時間<br>(1 回 3 分で 300 回) |
| 単 5 アルカリ乾電池 | 約 30 時間<br>(1 回 3 分で 600 回) |

上記時間は目安です。

また、このフックにはお試し用としてマンガン乾電池が入っています。

## 電池の交換のしかた

### ⚠警告

- **液漏れ、発熱、故障の原因になるため、下記のことに注意してください。**
  電池のプラス電極 ( ＋ )、マイナス電極 ( ー ) を正しく入れてください。
  電池は２本同時に交換してください。
  古い電池と新しい電池を混合しないでください。
  使い切った電池は、すぐにフックから取出してください。
- **電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中に入れないでください。**
- **電池は乳幼児の手の届かない所に保管してください。**
- **電池の仕様表示に従って正しく使用してください。**

**1** 機体をしっかり支え、コイン (10円玉など ) または、お手持ちのマイナスドライバーを使用してねじをはずします。
ねじをはずすと、フックとスプリングがはずれます。

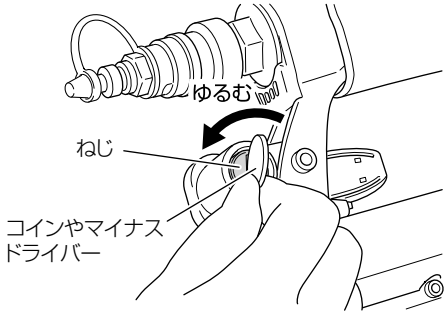
**2** フックのねじをプラスドライバー (No.1) ではずし、矢印方向へ押しながらフックカバーを取りはずします。

**3** 電池を取出し、新しい電池を入れます。
( フック本体の電池室の表示に合わせ、プラス･マイナスを正しく入れてください。)

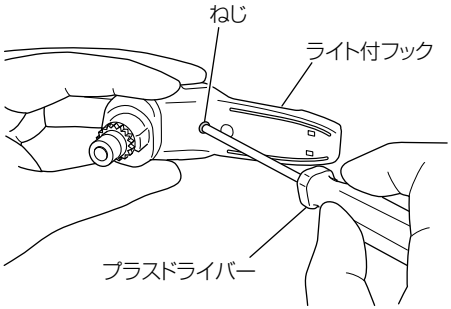
**4** フック本体の凹部とフックカバーの凸部を合わせながら矢印方向と反対方向に押し込み、フックカバーを取付け、ねじを締付けます。
電池は、市販品の単５、1.5 V をご使用ください。

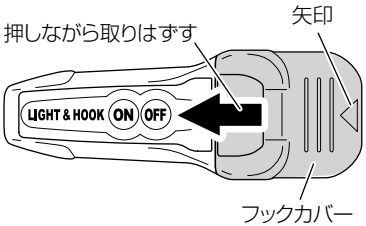
**注** **ねじの締過ぎに注意してください。**

**1**

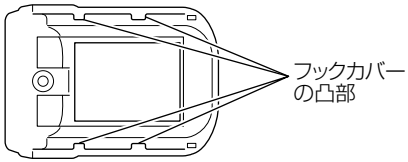


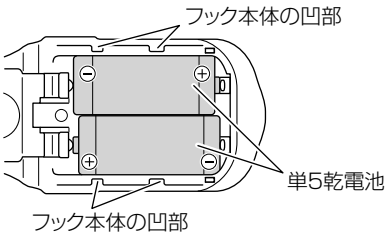

**2**




**3** **4**



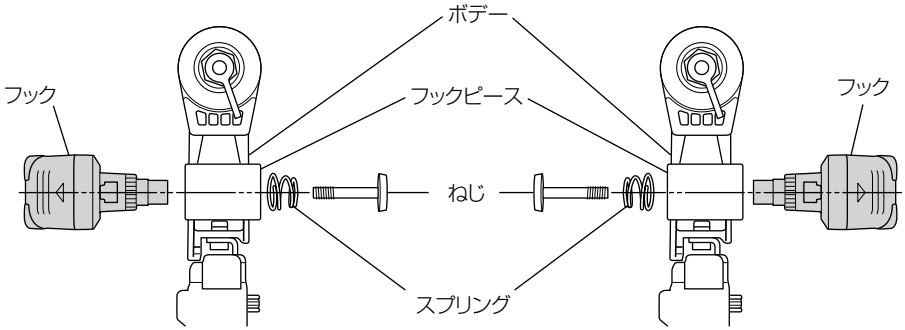
## フックの向きの変え方

### ⚠警告

**フックの向きを変えるときは、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずしてください。**

フックは 2 方向に向きを変えることができます。

向きを変えるときは、コインまたはマイナスドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。




【裏からみた図】

# 釘の取扱い方

注
- **釘は、ていねいに扱ってください。**
  落とすと、連結部が切れることがあり、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生することがあります。連結部が切れた釘は使用しないでください。
- **釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。**
  さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があります。釘梱包箱などに入れて保管してください。

# 保守・点検

## ⚠警告

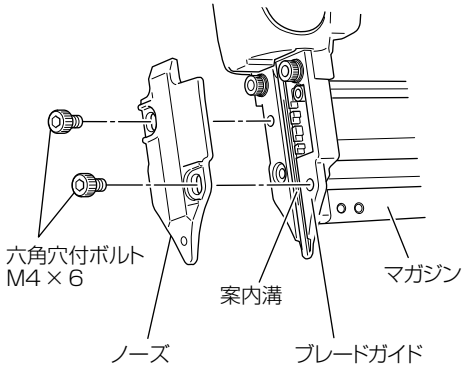
**釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ず引金とロックレバーに触れないようにして、エアホースをはずして釘を全部抜き取ってください。**

## ●釘づまりの直し方

**1** マガジンに入っている釘を全部抜きます。

**2** マガジン後部に収納してある六角棒スパナ３mm を使用してノーズをはずします。

**3** ノーズとブレードガイドの案内溝につまった釘、接着剤、破片、木くずなどをマイナスドライバーなどで取除きます。

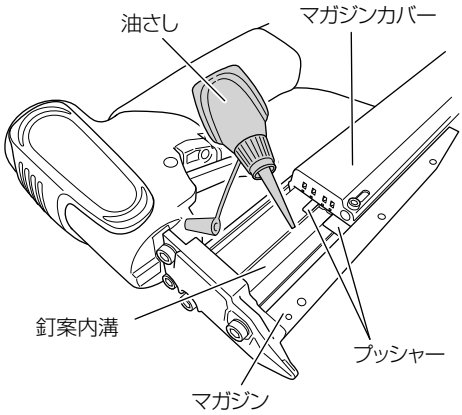



注
- **釘づまりを直し終えたら打ち込み深さを調整してください。**
  **（P.18「打ち込み深さの調整方法」参照）**
- **ドライバブレードの先端が摩耗すると、釘づまりや釘浮きが発生しやすくなります。釘づまりや釘浮きが多発するようでしたら修理を依頼してください。**

## ●マガジンの点検

マガジン内をときどき掃除してください。マガジンカバーを引き出して、溝の中にたまった釘の接着剤、ごみ、木くずなどを取除いてください。

注 **釘案内溝が汚れると、釘の動きが悪くなり、空打ちが発生しやすくなります。**
空打ちが多発するときは、釘案内溝にたまった釘の接着剤、木くずなどを取除き、付属の油を全体に薄く塗布してください。



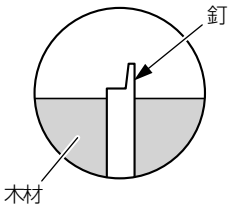

## ●ドライバブレードの点検

この機体のドライバブレードは消耗部品です。

釘の打ち込み後、右図のような釘浮きが多く出る (100 本に 2 ～ 3 本 ) 場合は、ドライバブレードの交換時期となります。

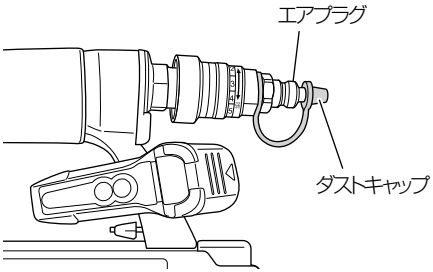
このまま使用していると、ノーズなど他の部品が破損する恐れがありますので、早めに交換してください。

ドライバブレード交換の際は、お買い求めの販売店に依頼してください。




## ●ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。




## ●取付ねじの点検

各部取付ねじにゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。
ゆるんでいる場合には、締め直してください。

## ●作業後の保管

### ⚠警告

**作業後は、釘を全部抜き取ってください。**

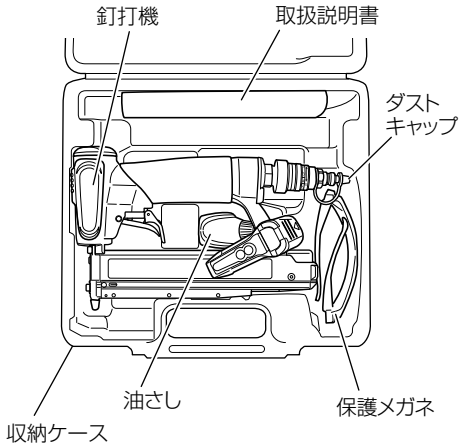
注 **エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。**

○ 作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、収納ケースに入れて保管してください。
機体と付属品は右図のように収納ケースに入れてください。

○ 長期間使用しない場合は：
- さび防止のため、エアプラグから給油し、マガジンカバーを開いて 2、3 回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
- 金属の摺動部には油をうすく塗布してください。
- 油は、付属の油をご使用ください。
その他、使用できる油は P.26「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。

○ 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。

○ お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



# エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する作業の速さ ( 毎分合計打ち込み本数 ) と使用空気圧力 (MPa) の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

**作業の速さ ( 毎分合計打ち込み本数 )**

| 使用空気圧力 / 高圧釘打機用エアコンプレッサ | 1.76 ～ 2.26 MPa { 18 ～ 23 kgf/cm² } |
|---|---|
| EC 1443H | 230 ～ 200 本 |

連続して釘打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

# 使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

| 油の種類 | | 銘柄および品名 |
|---|---|---|
| 釘打機・タッカ用オイル | | ――――　〔別途販売しております〕 |
| その他のオイル〔市販品〕 | ベビコン油 | 日立ベビコン用オイル |
| | エンジンオイル | エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W |
| | タービン油 | タービン油各銘柄　ISO VG32 ～ 68 (#90 ～ #180) |

注 **潤滑油は必ず上表の油を使用してください。**
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

| お買い上げ日　　年　　月　　日 | 製造番号 (NO.) |
|---|---|
| 販売店（TEL） | |

## 全国営業拠点

**お客様相談センター**　※土・日・祝日を除く　9：00 ～ 17：00

●フリーダイヤル
**0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

| | |
|---|---|
| ●営業本部 | ●北陸支店 |
| TEL (03) 5783－0626 | TEL (076) 263－4311 |
| ●北海道支店 | ●関西支店 |
| TEL (011) 896－1740 | TEL (0798) 37－2665 |
| ●東北支店 | ●中国支店 |
| TEL (022) 288－8676 | TEL (082) 504－8282 |
| ●関東支店 | ●四国支店 |
| TEL (03) 6738－0872 | TEL (087) 863－6761 |
| ●中部支店 | ●九州支店 |
| TEL (052) 533－0231 | TEL (092) 621－5772 |

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html

WEB に
アクセス

バーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。


# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 ( 品川インターシティ A 棟 )
営業本部　TEL (03) 5783-0626（代）

電動工具ホームページ ――http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/


部品コード　C99211001 806 Ō